



軽防協ニュース速報

2013年第4四半期(10月－12月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

2014年2月配信

アルゼンチン

報告未着。

オーストラリア

2013年第3四半期の報告未着。

カナダ

報告未着。

チリ

報告未着。

デンマーク

腺疫 (*Streptococcus equi*)

コペンハーゲン北部の乗馬学校で11月から12月に限局的な発生があった。この施設に繋養されている50頭中15頭が感染し、2頭が安楽殺された。

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークのRESPEから提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2013年10月2日、イル＝エ＝ヴィレーヌ県の乗馬学校で1件のEHV-1発生が確認された。感染馬はワクチン未接種のハフリンガー種であった。同馬には運動失調と発熱の臨床症状を認めた。鼻腔スワブのPCR検査により陽性診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

カルヴァドス県、シェール県、ランド県、ロワール＝アトランティック県、メヌ＝エ＝ロワール県、マイエンヌ県、オワーズ県、オルヌ県およびエソンヌ県において、フレンチ・トロッター種(4件)、サラブレッド種(1件)、フレンチ・サドルブレッド種(1件)

そしてアラブ種（1件）を含む計12件の発生報告があった。感染馬の臨床症状は、2件で発熱、1件で鼻漏と高熱、1件で頻脈と発熱、1件で発熱・鼻漏および発咳、そして1件で呼吸器症候群が認められた。全て鼻腔スワブのPCR検査で陽性診断がなされている。

レプトスピラ感染による流産

2013年11月29日に、ガール県でレプトスピラ感染による流産が確認され、胎盤のPCR検査で確定診断がなされている。

馬ピロプラズマ病

フランスでは依然、風土病である。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

カルヴァドス県、ロワール＝アトランティック県およびヴィエンヌ県において、フレンチ・サドルブレッド種（2件）、フレンチ・トロッター種（1件）およびシェットランド・ポニー種（1件）による4件の発生が報告されている。感染馬は1件で膿瘍形成、リンパ節腫脹、発熱および鼻漏を、1件で発咳および発熱を、そしてもう1件では衰弱、発熱そして浮腫という臨床症状を呈した。確定診断は鼻腔スワブ、膿あるいは化膿性鼻漏のPCR検査によってなされている。

ドイツ

Dr. Boese研究所有限会社 (HBLB CEMO認定研究所) による検査結果

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

1件が悪露（分娩後の膈内滲出物）のPCR検査で確定診断されている。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4)

4件の施設で7頭のEHV-4感染が確認されている。このうち6頭については鼻腔スワブのPCR検査によって診断されており、1頭は結膜スワブのPCR検査で診断されている。

馬インフルエンザ

12月に2頭の交雑種の成馬で確定診断がなされた。このうち1頭はワクチン接種済みであることが判明している。(ICC中間報告; Dec. 2013 #5)

サルモネラ感染症

発熱と下痢を呈する2歳牝馬でサルモネラ症が確認されている。確定診断は細菌培養と糞便材料のPCR検査で行われている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

発熱および鼻漏を呈した2歳牝馬において腺疫が確認されている。確定診断は細菌培養と鼻腔スワブのPCR検査でなされている。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

第4四半期中、レンスター地方(1件)、アルスター地方(1件)およびマンスター地方(2件)の4件の施設で、6頭のサラブレッドが発症した。確定診断は組織病理学およびウイルス学的に病理解剖後の検査で行われている。

イタリア

報告事項なし。

日本

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

発生は2013年10月12日から始まり、12月28日が最後である。2件の牧場で3頭のサラブレッドおよび1頭の非サラブレッド種が感染した。北海道日高家畜保健衛生所によるウイルス分離により診断された。このうち2頭はワクチン接種されている。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ共和国

報告未着。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

非定型のミオパチー

11月に1頭が発症した。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 4 四半期中の中間報告としてすでに発表していることに注意されたい。

- 馬インフルエンザ

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_October13.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_October13.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_October13.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_November13.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_December13.html

- EHV-4 による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_November13.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_November13.html

- EHV-1 による神経疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_November13.html

- EHV-1 による流産、EHV-4 による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_November13.html

- EHV-1 による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report3_December13.html

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

C. perfringens A 型の感染が 3 件と、*C. difficile* の感染 2 件がケンタッキー州で確認された。本病の発生は、その他いくつかの州から報告されている。

東部馬脳炎 (EEE)

馬における EEE 感染症例の確認数は、2013 年第 4 四半期中に 40 例に激減した。確認された EEE 症例数の年間総数は 183 例で、サウスカロライナ州 (49 例)、フロリダ州 (34 例) そしてジョージア州 (25 例) で多く記録されている。

ウマヘルペスウイルス (EHV-1/4)

第 4 四半期中に、EHV-1 あるいは EHV-4 感染の血清学的根拠が、呼吸器系臨床症状の有るものと無いもので確認されている。

ケンタッキー州の3つの農場で、EHV-1による流産の単独症例が確認された。

EHV脊髄脳症 (EHM) が2件発生しており、それぞれ11月と12月の発生である。前者はペンシルバニア州の競馬場に在厩していた馬群である。2つの離れた厩舎にいる何頭かの馬が、発熱と神経症状を呈し、非神経病原性株 (A₂₂₅₄) が原因であると報告された。2件目のEHMは、ノースカロライナ州の乗馬厩舎で発生した。4頭の馬が死亡あるいは安楽殺された。この農場には1頭の神経疾患症例が認められたが回復しており、その他5頭の発熱馬が確認されている。神経病原性株 (G₂₂₅₄) のEHV-1が関連している。

ケンタッキー州では少数頭に EHV-2 (6頭) および EHV-5 (4頭) が確認されている。

馬インフルエンザ

馬インフルエンザの発生が、カリフォルニア州、アイダホ州およびニュージャージー州を含む多くの州で確認されている。感染によって罹患馬は軽度から重度の症状を示した。

馬単球性エールリヒア症 (EME)

Neorickettsia risticii 感染の罹患率は、47症例を記録した第3四半期から有意に減少した。テキサス州で1例が報告されたのみであった。

馬ピロプラズマ病 (EP)

2013年第4四半期中に、*Theileria equi* 感染の血清反応陽性が1頭のクォーターホースのみで確認されている。*T. equi* あるいは *B. caballi* への感染が確認された馬の数は、USDA が編集した EP に関する国内状況報告 (National Situation Report) からのデータによると、昨年同時期より有意に減少している。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

EVA 感染への血清学的根拠はケンタッキー州とテキサス州の繁殖用馬で確認されたが、どの症例も EVA の臨床症状は認められなかった。

ローソニア腸症

2013年の第4四半期中、*L. intracellularis* 感染症例数は増加が見られ、ケンタッキー州で16症例とオハイオ州で1症例が確認されている。

レプトスピラ症

第4四半期中、ケンタッキー州でレプトスピラによる流産が計6例確認された。

ロドコッカス感染症

USA では *Rhodococcus equi* 感染症は風土病であり、国内に広く分布しているが、症例数や発生数の報告は他の州では行われておらず不明である。(ケンタッキー州で6件の発生が診断されている)

サルモネラ症

サルモネラ症は風土病であり、症例や複数頭の発生がしばしば診断されており、ケンタッキー州ではサルモネラ B 群感染が13例確認されている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

USA 国内の馬群では、腺疫は風土病である。発生は、ケンタッキー州（3 件）、インディアナ州（92 件）、ノースカロライナ州（1 件）およびバージニア州（1 件）といった、いくつかの州から報告されている。

ウエストナイル脳炎（WNE）

2013 年第 4 四半期中、馬における WNE 症例数は有意な増加が見られ、国内発生総数は 173 例から 373 例に増加した。本病は 39 の州で確認されており、テキサス州（60 例）、オクラホマ州（41 例）およびモンタナ州（27 例）で多数確認されている。

ベネズエラ

報告未着

以上